

連載**社会教育施設について考える (WG 報告)****～第 14 回：日本公開天文台協会での動き～**

福澄孝博 (WG 代表/札幌市青少年科学館)、生涯学習施設支援 WG

1. はじめに

日本公開天文台協会 (以下、JAPOS) は、「公開天文台の発展と、職員の資質の向上や交流を深めるとともに、天体を通して豊かな人間性をなう生涯学習の充実を目指すことを目的として[1]」設立された団体です。本連載記事でも、昨年の公開天文台台長会議に出席した報告[2]や、それがきっかけになって当 WG の活動方針が変わったこと[3]などをご紹介します。

今回、福澄は 4 月の第 3 回 公開天文台台長会議・6 月の JAPOS 第 14 回全国大会に出席しました。その中で、昨年 JAPOS 側に設立された“公開天文台の健全化推進 WG (以下、健全化 WG)”との交流を深めてまいりました。本記事では、その中で明らかになった健全化 WG の活動の様子を、台長会議の簡単な内容紹介と共に報告いたします。

2. 第 3 回 公開天文台台長会議

第 3 回 公開天文台台長会議は 4 月 15 日に東京足立区のギャラクシティで開催されました。参加者は 28 名 (台長、運営担当者、スタッフ等)、4 件の事例報告と 3 件の話題提供・報告がありました。

事例報告ではそれぞれ性格の違う施設が異なった課題への取り組みを発表されました。公設・私設、直営・指定管理者制度、規模の大小といった様々な性格の施設が、「休館・閉鎖からの復活」「同好の士で円滑な組織運営」「私設天文台から公設天文台へ」「市民参加型の先進的な館活動」など、ご紹介くださいました。話題提供では、まさに健全化 WG による現状報告、某天文台の名誉台長のお仕事、

恒星などの固有名詞の表記・発音の話などが話され、興味深くも大いに参考になる楽しい会合でした。

3. 健全化 WG の活動、現状

健全化 WG が設立された経緯、当初の活動方針などは先の記事[3]でも簡単に触れたところですが、今回の 2 つの会合の中でお互いに交流し、意見も出し合いながら、具体的に固まりつつある現状を見てきましたのでご紹介しましょう。

現在、当初予定したアンケート調査を行うよりも、より深く掘り下げて聞き出すためにもインタビュー形式が適切ではないかと考えているとのこと。また、調査すべき内容も、○日本に天文台が多くできた要因や、市民にとっての天文台のイメージ、○利用人数だけで評価されて良いものか。また、それに代わる評価基準はなにか、○それらからあぶりだされる運営の阻害要因は何か、どの段階で生じているか、といった、「天文台の成り立ちや在り方の基礎から積み上げた、より説得力のある結果を生み出せる」ものにしようとして検討されています。まずは、この 1～2 年で、WG 活動方針・調査方法を定めるべく、種々話し合われている様子が伺えました。

そんな中、「これだけはしっかり取り決めないと」と早急に検討されており、又、本 WG にとっても活動にあたり参考になるのが『データの取り扱い基準』でした。調査結果にはデリケートな内容も含まれます (そこまで突込んだ調査にしたい、とのこと) ので、慎重に取り扱う必要があります。いくつかのレベルに分け、どの段階までの公開を可とするか、

調査相手に選んで戴く、といった指針の定義を模索されています。

このことは、たとえ調査対象のご本人が公開許可して下さっていたとしても、その公開された情報を見て、その後に調査させて戴く方が「公開されてしまうならばこの話はできない」と尻込みされてしまう、という事態をも想定してのことだそうです。

以上、簡単にですが、JAPOS での動きをご紹介しました。本 WG および引き継がれる新 WG でも、これらを参考に、より良い活動が出来るよう、また、協同して調査研究にあたれるよう、していきたいと思います。

文 献

[1] 日本公開天文台協会について(JAPOS の HP より)

<http://www.koukaitenmondai.jp/setumei/setumei.html>

[2] 齋藤正晴ら(2018)「社会教育施設について考える(WG 報告)～第 10 回：公開天文台協会会長会議報告～」, 天文教育, 第 30 巻第 4 号(2018 年 7 月号), 42.

[3] 福澄孝博ら(2018)「社会教育施設について考える(WG 報告)～第 12 回：本 WG のこれからと新 WG への引継ぎ～」, 天文教育, 第 30 巻第 6 号(2018 年 11 月号), 25.



福澄 孝博

* * * * *